

注意したい 夏休み中の青少年たち

強い太陽の日ざしが、ジリジリと照りつける夏がきました。

学校は夏休みをむかえ、子供たちは自由解放な気分になります。長い夏休み期間中は、青少年の犯罪、事故などが年々増加していますので、十分注意したいものです。

子供を交通事故から守ろう

夏休みに入ると、こどもの交通事故の件数が増加します。長い休みの解放感による子供自身の心のゆるみと、夏の暑さのため運転車の注意力がぶるためです。明日の社会をになう大事な子供の生命を守るため、家庭及び運転



者の皆さんは、次の点に注意してください。

〈家庭での注意〉

- ①、公園など安全な遊び場所を指定して、車道へのとび出し、路上での遊び、幼児のひとり歩きを防止する。
- ②、日常の生活の中で、交通安全教育を具体的にくり返して教える
- ③、夏休み中は、特に危険な自転車乗りが目立つので、安全運転を指導する。

〈運転者の注意〉

- ①、暑くなると過労が交通事故に結びつき易いので、睡眠を十分とり自らの健康管理を心がける。
- ②、子供を見たら赤信号と思い安全な間隔を保ちつつ、いつでも停止できるよう徐行する。

ヘルメットをかぶろう 自動二輪車の運転者

花火の取扱いは 慎重に

夏の夜空をいろどる花火は、風物詩として欠かせないものです。しかし、近年、花火をほぐして火薬を容器に入れて持ち歩く傾向にあり、振動による爆発事故が増加しています。

昨年、全国で発生した花火による事故は、百十二件に達し、八十四人の負傷者を出しています。夏の夜の楽しい花火遊びから、

注意したい 少年の非行化

少年たちにとって、夏休みは一番の楽しみです。しかし、夏休み中は少年が非行化する機会の多い時でもあります。これには、いろいろな原因が考えられますが、まず、少年たちは一カ月余りの長い期間にわたって規則正しい学校生活から解放されます。これがややもすると生活の規律を乱して、遊

悲しい事故を起こさないよう次の点に十分注意しましょう。

〈正しい花火遊びをする〉

花火を使うときは、「使用方法」をよく読んで正しい遊び方をする。

〈遊び場所を選ぶ〉

風のあるときや、人家のそばでは花火遊びをしないようにし、残り火のあと始末は確実にする。

〈子供に向けた花火を〉

花火は、こどもに向けたものを選び、花火をほぐして使うことやポケットに入れて持ち歩くことは絶対にさせない。

びぐせをつけることになります。また、花火大会、盆踊りといった夜の行事があることも、好ましくない遊びを覚えることにつながります。それだけに、家庭では少年に対する注意を忘れないようにしましょう。

夏休み中の少年の非行化を防ぐには、規律正しい日課をたてさせることが第一です。そのためには勉強と遊びの区別をはっきりさせることがだいじなことです。

それから、海水浴場はもちろんキャンプ、花火大会など、夏の行事には少年たちだけで行かせず、必ずおとながついて行くことがだいじなことです。こうすることが犯罪や事故による被害を防ぐことにつながります。